

税についての作文

神崎中3年 小塩 翼 くん

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞 受賞

全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催した中学生の「税についての作文」。本町から作文を応募した神崎中学校3年の小塩翼くんが、見事、全国納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました。また、唐鎌沙耶さんの作文が神崎町長賞、宇佐美瑞希さんの作文が香取地区教育委員会連絡協議会会長賞を受賞しました。

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました小塩翼くんの作文を紹介します。



あたりまえの毎日のために

神崎中学校3年 小塩 翼 くん

平成二十三年三月十一日。その日は僕にとって、忘れられない日となった。東日本を襲った大地震は、あつという間に僕からあたり前の日常を奪っていった。地震による液状化の被害は甚大であり、僕の家は大きく傾いてしまい、庭のあちこちに亀裂ができ、そこから泥水が噴き出しており、家の前の小さな川や道路は、原型をとどめない程大きくゆがみ、まるで爆弾を落とされたかのような状態であった。それだけでなく、浄水場が壊滅的な被害をうけ断水となり、電気も止まってしまった。その為、僕達家族は避難生活を余儀なくされた。避難先の小学校では、食料や飲み物を頂くことができ、小学

三年生だった僕は、近所の友達と喜んで食べた記憶がある。地震後数日すると、家の近くに給水所が設けられ電気も使えるようになり、ガタガタになった道路も車が通れるような状態になっていた。災害なんて起きて欲しくないが、被災して初めて「蛇口をひねれば水が出る。」「暗くなったら電気を点ける。」というあたり前の生活を送れることの有り難さを痛感した。

震災から五年が経ち、中学三年生になって今、当時父が言っていた言葉がなんとなく理解できるようになった。それは、「被災したことは辛く、大変なことばかりだけど、みんなに支えられていることをつくづく感じるな……。」という言葉である。実際親戚や友だちの家でお風呂を借りたり、食事を頂くことも多かったし、両親の知り合いの方々が水や食料を送ってくれたり、沢山の支援を頂きました。しかし、それだけでなく父が伝えたかった事は、避難先で頂いた食料、ライフラインの復旧等、それらは国民の納める税金で賄われているということなんだと。今まで税金といったら、僕に直接関係するのは消費税くらいで、

買い物をする時に「消費税高いなあ。」といったも思っていた。しかし、税について調べていくうちに、災害時だけでなく、そもその日々の暮らしの中で受けているサービスは、高いと思う消費税や大人が納めている所得税等、税金によって成り立っているのだということが分かった。

ところが、このまま少子高齢化が進むと、今のままの税の仕組みでは、人々の生活を支える事が難しくなっていくらしい。社会の変化に合わせて、税の仕組みを考えていくことも必要だが、税金を無駄使いしないようにすることも大切である。例えば、社会保障に関する費用をおさえる為に、健康な身体づくりを心がけ、むやみに救急車を利用しないようにすること等、身近なことで僕達にもできることがあるはずだ。

だが僕達は一人では生きていくことはできない。お互いが支え合い皆が安心して心豊かに暮らしていく為に、税金があるのである。納税の義務をきちんと果たすこと、税金がどのように使われているのかに関心を示し考えていくことが大切だと思う。